



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さまの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

患者の皆様の権利と意思を尊重します。
安全で優しいチーム医療を提供します。
倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
地域医療連携の促進を図ります。
骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第42号

2011.11

発行責任者 院長 臼井 宏

診療科のご案内

神経内科

神経内科医師 志方 えりさ

神経内科は脳神経内科と標榜している病院もあり、「脳と神経、脊髄、筋肉」を専門としている内科です。内科というと、五臓六腑といわれる心臓、肺、肝臓などをまず思い浮かべられる方が多いと思いますが、脳、神経、筋肉は五臓六腑には入りません。

神経内科の担当する病気が昔、存在していなかったということではなく、例えば、中気、脚気などは神経内科の担当となります。つまり脳、神経の異常としておこってくる、頭痛、物忘れ、しびれといった症状をおこす疾患、“脚気＝脚が痺れる”“中気＝脳卒中によりしびれや麻痺がのこる”は神経内科の領域となります。

そもそも神経内科という標榜は「Neuron」＝神経細胞という語から作られた「Neurology」という語の訳からきており、精神神経科や心療内科と混乱をきたしていたことがありました。精神神経科と関連がないわけではありませんが、どちらかという、脳卒中関連で脳神経外科、しびれ関係で整形外科と関連が強い科です。

また、他の内科とは診察の時点で異なる道具を使います。写真にお見せしているのは診察の時使う用具です。いったい何がでてくるのかと診察の時いぶかれる方もいらっしゃいますが、診断のための検査と道具ですとご説明させていただいております。打鍵器という検査用具で叩いたり、はけで触ったりいたしますので、昔は気を悪くされる方もいらっしゃったようで、私の恩師は殴り返されたこともあったそうです。



一般的に神経内科で多いのは頭痛、物忘れであります。当センターの特殊性からしびれ、手足の動きが悪いということ受診される患者様の比率が多くなっています。整形外科的しびれでは勿論、腰椎症に由来するしびれが多いのですが、特に末梢といわれる足裏のしびれでは、現在では糖尿病が多いのです。また、脚気ではありませんが、他のビタミン不足でもしびれがくる病気もあります。知られていないことですが、パーキンソン病の中にもしびれを訴える方もいらっしゃいます。

歩き方が悪いので腰が悪いと思っていられる方の中にパーキンソン病、末梢神経の病気が隠れていることがあります。また歩き方だけでなく物忘れも悪くなってきた場合は脳も調べていただくことが必要になることもあります。突然「神経内科」と言われて戸惑う患者さまもいらっしゃることは存じますが構えずに診察に来ていただけたらと思います。

放射線科

診療放射線科技師長 真壁正二

放射線科は、医療に欠かすことの出来ない画像を提供する部門を担っております。

皆さんおなじみのエックス線撮影やCT検査、バリウム検査、脊髄腔造影検査、骨密度測定などはエックス線を使用しておりが適正に管理し被ばく低減に努めております。また、エックス線を使用しないMRI検査は強力な磁石を使用しますので、検査前にペースメーカーなどを埋め込んでいないか、金属類を身につけていないか厳重にチェックを行っております。さらに安全のためにガウンをご用意しておりますので安心して検査が受けられます。

過去に撮影したデジタル画像はPACS（医用画像総合管理システム）で管理されており、2009年よりフィルムレス化を開始し、フィルムの作成・搬送がなくなり、質の高い画像を迅速に提供できるようになりました。ようするに患者さまが撮影してフィルムを持たずに外来に戻る頃には画像を見る事が出来るようになりました。職員でパスワード取得者なら院内のPACSに接続されているどこのパソコンからでも画像を診ることができ診療機能が充実してきました。

当センターは、整形外科疾患および脊髄疾患など運動器疾患を重点に診療活動を行っておりますので、エックス線撮影は頸椎・胸椎・腰椎などの脊椎および四肢骨と関節が圧倒的に多くなります。その中でも脊柱側弯症の診断及び経過観察での年間約1500件の全脊椎撮影が特徴的です。

MRI検査もエックス線撮影同様に脊椎・脊髄および関節の撮像が多くなります。関節では膝半月板損傷、変形性膝関節症、変形性股関節症、大腿骨頭壊死、肩腱板断裂、骨折など、脊椎では変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、後縦靭帯骨化症、脊髄損傷、脊椎・脊髄腫瘍、脊椎カリエス、化膿性脊椎炎など様々な疾患の診断に役立っています。

骨粗しょう症診断のための骨密度測定器（東洋メック社製QDR 4500）が設置されており、より詳細な情報が得ることができます（担当の医師にご相談ください）。骨粗しょう症は、骨がスカスカになって折れやすくなる病気です。閉経後の女性に多く、年齢がすすむにつれ必然的に増えてきます。最近では過度なダイエットや運動不足など若い女性に増えています。また、武蔵村山市の委託を受け、毎年7月に骨粗しょう症検診を行っております（武蔵村山市立保健相談センターにお問い合わせ下さい）。

CT検査もエックス線撮影同様に脊椎および骨や関節の撮影が多く、内科や外科など他の診療科でも利用しております。特に脊髄腔造影検査後のCT検査は大変役立っております。このため64列の最新CTの更新を予定しております。

患者さまの安心安全を第一に、診断価値の高い画像の提供を心掛けて、今後も頑張っておりますので宜しくお願い致します。



骨密度測定器



放射線科スタッフ

看護部案内：外来

外来看護師長 堀部 道子

当センターは、骨・運動器疾患の高度専門医療施設として位置づけられ、内科、神経内科、外科、整形外科、泌尿器科、リハビリテーション科、歯科の8科を標榜しています。他に特殊専門外来として側彎症、内科リウマチ、整形リウマチ、骨粗鬆症、スポーツ外来、装具外来があります。整形外科医17名、リハビリテーション科医4名、外科医3名、内科医3名、神経内科医1名、歯科医1名が外来を担当し、入院の方対象の泌尿器科、皮膚科、精神科、呼吸器科、循環器科各科医師の外来もあります。

初診の方や予約のない方は、正面玄関での受診手続きが必要ですが、予約のある方は、それぞれの受診科窓口での受付で受診手続きが出来ます。前回受診後3ヶ月未満の方や手術後の定期診療の方については、お電話での診療予約ができます。

また、かかりつけの病院がある方や紹介状をお持ちの方は、当院の地域連携室にお問い合わせ頂ければ、初診でも専門担当医師の予約ができます。

再診外来受診電話予約のご案内	
受付時間	月～金の 午後3時～午後5時
電話番号	042 - 561 - 1221 (代表)

外来スタッフは、看護師長1名、副看護師長

1名、看護師10名、窓口担当事務職員4～5名で構成されています。担当看護師が診察の順番が近づいた2～3人の方を番号でお呼びしていますので、受付番号を呼ばれた方は、診察室近くの椅子でお待ち下さい。それぞれの診察室では、診察の他に注射などの処置をすることがあります。看護師は、診療・処置などの介助や注意事項等の説明を行っています。皆様に、専門的医療情報を提供出来るスタッフを揃えていますので、心配事や分からない事などお気軽にお尋ね下さい。

その他、歩行が困難な方の為に正面玄関に車椅子を置いています。定期的に外来看護師が整備していますので、ご自由にお使い下さい。ベッドのあるお部屋も用意しておりますので、看護師に声かけ下さい。

私たちは、待合室のパンフレットの充実と環境を整え、毎日の関わりで患者さまが安心して医療が受けられるような看護を努めています。より良い医療サービスを提供するために、患者さまのお声を拝して日々を振り返り、改善努力をして参りたいと考えています。皆様の忌憚のないご意見を頂ければ嬉しく思います。



一日看護体験学習によせて

副看護部長 花井 より子

東京都並びに東京都看護協会では毎年夏に、看護への理解と関心を深めていただき、「看護の心」に触れ、進路選択の参考となるよう、主に高校生・中学生を対象に、都内の医療機関等において「一日看護体験学習」を実施しています。また近年、社会人においても看護職を目指す方々が増えていることから、そのような方々にも参加いただけるよう対象が拡大されました。

村山医療センターにおいても「命を守る医療の現場を体験!」と題し、7月27日に「一日看護体験学習」が実施され、4名の方に参加いただきました。4名の方は、将来看護師を志している、初々しさの中にもパワフルな頼もしい近隣の高校生（2学年生3名、3学年生1名）で、2病棟と4病棟で体験学習を行いました。学生さんからは看護体験学習を通じて、「患者さんに信頼されている看護師さんの姿を拝見することができ、より看護師になりたいという気持ちが強くなりました」、また「車いすや歩行器など普段使ったことのない看護用品を実際に使用し、患者さんの気持ちが理解できる貴重な体験をすることができました」等の感想が聞かれました。

今回の体験学習に参加された方々には、看護に少なからず興味を深めていただけ、将来の看護師増に貢献できたと自負いたします。さらに我々現場の看護師は、将来有望な彼等から、患者さまに還元することのできる大きなエネルギーを頂けたと感謝いたします。



看護師募集活動と教育について

看護部 教育担当看護師長 伊藤 佐代

当センターでは、看護師募集活動として、春に看護部・診療部・事務部で、東北から九州まで就職説明会、学校訪問等を行っています。お陰様で、遠くは北海道・沖縄と、全国から毎年20名程度の新人看護師が就職してくれています。学生が当センターの就職を希望する理由としては「実習での看護師の指導が良かったから」「骨・運動器疾患患者の看護のスペシャリストになりたい」がほとんどです。学生は学習者、看護師は指導者と立場は違っても、当センターの中で看護する時間を共有する仲間として、大切に受け入れるよう心がけています。そのことが、就職につながっていると考えます。

また、新人看護師に対しても同様です。国家試験に合格したからといって、すぐに立派な看護師になれるわけではありませんので、ひとつひとつ覚えながら時間をかけて一人前の看護師になっていきます。それを先輩看護師がサポートします。そして院内全体で、誰でもが気にかけてあげることが出来るように、名札に新人マークをつけています。このように、人が人を育てるといふ教育環境を整えています。

更に、人生の中での転機、結婚・出産・育児等で、せっかく一生の仕事として選んだ『看護師のキャリア』が中断されないよう、その人・その時に合った学習が出来るように支援しています。

当センターの看護師は、お互いに助け合いながら、それぞれの目標を持ち、看護を行っています。患者さんに、最新・最良の看護が提供できるよう、専門性を高める学習・看護研究を行い、日々成長しています。



新人マーク

★ 寄席のススメ ★

リハビリテーション科医師 白井 幹子

北海道出身の私、東京らしいことをしてみようと、先日、池袋演芸場で初めて寄席を見てきました。笑点でおなじみの桂歌丸芸歴60周年記念公演でした。思ったより小屋が小さく、最前列で迫力の伝統芸能を堪能しました。歌丸さんの直前に登場された、林家今丸さんは、精密な切り絵をお囃子に乗ってあっという間に切り抜き、感動しました。挙手したところ作品と千社札を頂戴しました。拙宅に飾るよりも、病院で多くの患者さまに見て頂こうと廊下に掲示させて頂きました。右上の花火は、私の担当患者さまが作業療法で描いたものです。当院に入院中の患者さまは、なかなか寄席に行けない方が多いと思いますが、少しでも寄席の空気が伝わり、リハビリテーションの励みになれば嬉しく思います。



災害医療研修に参加して

整形外科医師 武田健太郎

この度、災害医療センターで開催された災害医療研修に参加させていただきました。

村山医療センターが、脊椎脊髄や骨・関節疾患についての機関病院であるのに対し、災害医療センターは、地震などの災害時の救急医療などについての機関病院となっております。今回の研修の中にも大災害を想定した防災訓練の見学も含まれておりましたが、日常診療業務も制限して、病院全体で行うもので、一部病院の破損をも含む、詳細な設定のもとでの訓練で、いかに的確に、より多くの患者を治療していくか、そのシステム形成をいかに行って、病院スタッフに全員がその役割を担っていくかということを学ばせていただきました。

私自身も、かつての中越地震、中越沖地震の際には、応援医師として現地でお手伝いさせて頂いたこともありました。被災地にある病院は、診療を続けなければならない状況というのはもちろんなのですが、病院スタッフ自身も同時に被災者となっております。そのような有事に、いかに的確に動くことができるかは、その時に頭で考える量をできるだけ減らす、つまりは、事前にシステムをしっかり作成し、それを体が勝手に実践できるようにしておくことが肝要と思われます。

当院でも災害時のマニュアルはあり、去る3月

の大震災時にも使用いたしましたが、経験を活かし、患者さまがより安全に安心していただけるように、より良いものを作成し、その準備をつねに怠らないことの必要性をより感じさせていただきました。

7病棟 副看護師長 増田智恵

今回、9月2日に災害医療センターでの災害研修に参加しました。

災害発生時の多種多様なケースに対応できる災害医療技術の習得及び向上を図ることを目的とした研修でした。講義や災害訓練の見学を通して災害発生時に備えた事前準備の大切さや、日頃の訓練から今後必要なことを見出して取り組むことの必要性が求められることを感じました。今年に起きた東日本大震災、福島原発事故に対しての医療活動の実際から、震災の状況を踏まえ活動範囲を広げたり、患者搬送をスムーズにさせたりする体制を整えるために、指揮系統を確立し情報システムを機能させて活動できることが多くの人命救助に繋がることを学びました。

災害訓練の見学では、現実に行っている想定した訓練から実践につなげられることが大切だと感じました。災害レベルに応じた対応の仕方を各部署でマニュアル化されており、被災者の患者情報管理にトリアージタグをつけて被災者名簿

を作成し、病院内での搬送経路を作り、受け入れ準備を整えられるようにしていました。当院でのトリアージ場所や、受け入れ場所をどのように整えていかなどシュミレーションしました。災害が発生した時にどうするか、日頃より災害時に備えた準備や訓練は大切だと感じました。

6病棟 看護師 佐藤静香

私は9月2日に行われた災害医療研修に参加させていただきました。

毎年開催されている研修ですが、今年は3月11日に起きた東日本大震災時の活動の実際や入院中に被災された方々への対応について学ぶことができました。福島原発付近では放射能汚染への懸念から救出活動を拒否する団体が多く、発生から3日間は自治体と国立病院機構のみで患者搬送等の対応をしたそうです。当院でも震災の時建物にひびが入るなど被害がありました。その際患者さまの安否確認を行うと共に安全であることを説明したり、病室の移動を行ったりとあわただしく対応しました。震災時には多くの人々がパニック状態に陥り、今自分が何をすべきか分からなくなってしまうと思います。そのとき、患者さまの身近にいる看護師として、現在の状況と安全、今後の具体的な動きについて説明を行い、不安を軽減していくと共に災害に対応できるように自分の役割を振り返っていきたくです。

庶務係長 服部 聡

私は9月2日に立川市にある災害医療センターにて行われた災害医療研修に参加させていただきました。

まず初めに3月11日に発生した「東日本大震災でのDMAT、医療班、サーベイチームの活動」についての説明を受けました。説明をされました。

近藤DMAT事務局次長は、3月11日に東北での講演を行うために新幹線での移動中に被災し、大変ご苦労され、そのままタクシーにて被災地入りしてDMATとしての活動を行ったそうです。

次に「災害医療センターの災害時受入れ体制・災害訓練」と「本日の災害訓練について」の説明を受けました。ここでは病院機能継続のために、マニュアル（本部機能・情報管理・連携）、訓練・研修（現実的なもの）、個人（技能・知識・啓発・モチベーション）、減災（耐震化・緊急地震速報）、人的情報管理（院内LANを使用した災害時職員・患者情報登録システム）、備蓄・物流管理（日頃の備え・チェック）が必要だということを知りました。

お昼は災害時用非常食の試食で、写真のとおり缶に入ったパン、やきとり、ポテトツナサラダを食べました。腹一杯にはなりませんが、災害時を想定しつつ試食しました。

午後からは、院内多数傷病者受入訓練の見学で、災害本部の状況、外来ロビーで診察を行えるようにするため、集まった職員で素早くイス等をどかしてスペースを作る動き、トリアージの状況、患者受付の状況、災害時用の備蓄物の数々を医師、看護師、事務に分かれて見て回りました。

マスコミ対応では、院長と事務部長が訓練記者会見として対応するものでした。

今回、研修に参加して感じたことは、災害医療センターと当院では規模・職員数・診療機能の違いがあるため、すべてにおいて同じようにすることは出来ないが、当院の状況を考えてマニュアルを作成し、訓練していくこと（マニュアルなくして、訓練はできず・訓練なくして、マニュアルの改善はできず）。そして職員一人一人が災害時に迅速かつ適切な動きが出来るように常日頃から意識を高めていくことが重要であると思いました。



『食中毒予防』

食中毒は、夏の暑い時期だけに起こるものではありません。涼しくなってくるとついつい気持ちも緩みがちですが、一年を通じて気をつけたいものです。食中毒の原因は、目に見えない細菌やウイルスなどの微生物によるもの、フグやきのこなど動植物の自然毒によるもの、食品添加物などの化学物質によるものなどがあげられます。

微生物の食中毒では、サルモネラ菌（卵や肉類）や腸炎ビブリオ（海水に生息する魚や貝類など）によるものが今まで多くの食中毒を起こしてきましたが、最近の傾向としてはノロウイルス（二枚貝・特に生カキ）やカンピロバクター（肉類・特に鶏肉）によるものが増加しています。

食中毒事故は、集団給食施設が多いと考えられがちですが、一般の家庭でも H22 年でみると 12.4% も起こっています。食中毒の主症状は、菌の種類によって異なりますが、一般的には、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢などの急性胃腸炎です。「おかしいな」と思ったら、早めに受診し、検便等の検査を受け、適切な処置をすることが大切です。

食中毒は、原因菌を口にすることによって起こります。誰にでもできる食中毒予防の 3 原則は、次のとおりです。

1 食品に食中毒の原因菌を **つけない**

（よく洗う、他の食品と接触させない、食品を保管するときはラップや蓋をする）

2 食中毒の原因菌を **増やさない**

（長時間室温に放置しない、熱いものは熱いまま、あるいはよく冷まして冷蔵庫に保管、冷たいものは冷蔵庫に保管）

3 食中毒の原因菌を **やっつける**

（加熱して殺菌する）

食中毒予防の基本は、3 原則を守るほか、“手をしっかり洗うこと”です。体力が落ちたり、体調がすぐれなかったりする（免疫力が低下した）時は、食中毒の危険が高くなりますので、「生もの」や「怪しいと思うもの」は避けるよう注意しましょう。

栄養管理室 山田 直子



患者さまの権利と責任

1. 個人の人格は尊重され、安全で良質な医療を受ける権利があります。
2. 自分の受ける医療について、十分な説明を受けた上で自分の意思で医療の選択をする権利があります。
3. 自分の受ける医療に対し、不明な点は質問することができ、診療情報の提供を受けたり、開示を求める権利があります。
4. 個人の情報を直接医療に関わる医療従事者以外の第3者に開示されない権利があります。
5. 自分の受ける医療について、別の病院を受診したり転院することができます。その際、十分な診療情報の提供を受ける権利があります。
6. 自分の健康に関する情報を正しく提供し、また他の患者の診療に支障をあたえず、医療従事者と協働して医療に参加する責任があります。

臨床倫理指針

1. 患者さまの人格、信仰、意思等を尊重し、説明と同意に基づく患者さまの自己決定を優先します。
2. 患者さまのプライバシーを尊重し、守秘義務の遵守と個人情報の保護を徹底します。
3. 患者さまの尊厳及び人権に関わる医療については、臨床倫理委員会で審議を行い、方針を決定します。
4. 関係法規、ガイドラインを遵守し、検査・診断・治療・研究を行います。
5. 医療の発展のために積極的に臨床研究を行い、その実施においては倫理審査委員会において十分検討をおこないます。

平成23年度患者数の推移

【入院】（1日平均入院患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	190.5	196.3	204.2	214.9	225.6								206.4

【外来】（1日平均外来患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	211.4	216.5	202.9	203.1	201.9								206.8

外 来 診 療 担 当 医 師

H23.10現在

受付時間	診療科等	月	火	水	木	金	備考	
一般 外来	内科	山 縣	山 縣 志 方	山 縣 志 方	岡 田 原 田	岡 田 杉 本		
	外科	(手術日)	瀬 川	瀬 川	瀬 川	※瀬 川	※第2金曜、第4金曜 の診察時間は 10:00~12:00です	
	整形 外科	再診	白井[関・整] 竹光[脊・整] 田邊[手・整] (午前のみ)	福田[脊・整] 藤吉[脊・整] 名越[脊・整]	塩田[脊・整] 武田[関・整] 八木[脊・整]	町田[脊・整] 金子[脊・整] 白井[関・整]	笹崎[関・整] 長谷川[脊・整] 飯塚[脊・整]	黒字：側 弯 白字：脊髄損傷
		初診	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制	
	リハビリテ ーション科	白 井	植 村	森	杉 山	交替制 第5金曜日は休診	第1金曜…森 2 …植村 3 …白井 4 …杉山	
歯 科	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制		
特 殊 外 来	手の外来				田 邊			
	内 科 リウマチ				山 縣		予約制	
	整形リウマチ スポーツ外来(下肢)			笹 崎 第1・3週			※毎週交替 予約制	
	側 弯	斎藤(正) 第4週のみ			町 田 金 子	町 田 福 田 第2・3週	予約制	
	骨粗鬆症				町 田		予約制	
	装具外来 (リハ棟)	植村・森 白井・杉山(※午後)					予約制	
10:00~ 12:00	セカンドオピニオン (整形外科)		○				予約制	

診療について

整形専門分野
(脊) 脊椎・脊髄
(関) 股・膝関節・下肢
(手) 手・上肢
(整) 整形一般

診 療 日 月曜日～金曜日（祝日及び年末年始は除く）

診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分

再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は（整形外科）随時受付しております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1
TEL 042-561-1221 (代) FAX 042-564-2210
URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>

■地域連携医療機関の紹介

杉岡整形外科

院長あいさつ

当院は平成9年10月に東大和市駅から徒歩3分ほどの所に開院しました。大学を卒業後、末梢神経損傷の問題に関することを専門にしながら勤務医として24年間を勤めた後の開業でした。これまで東大和市にはなじみも薄く、また、知り合いの先生もいず、いったい患者さんが来てくれるのかと不安でしたが、開院初日に40人の患者さんが来てくれたことには感激しました。地域医療に少しでも役に立ちたいとの思いを強くしました。



院長 杉岡 宏 先生

平成21年2月には現在の場所に引っ越しました。以前の所のすぐ隣ですが、「東大和メディカル」の三階です（一階は精神科、二階は内科と皮膚科になっています）。

患者さんは、腰や膝の痛み、頸や肩の痛み、骨折、関節リウマチ等の方が多く見えます。腱鞘炎、四肢の軟部腫瘍、手根管症候群のような手術は当院でやっています。リハビリ室では器械による消炎鎮痛を主にやっています。近隣の病院とも連携をとって、大きな疾患で手術適応となるような患者さんは紹介しています。村山医療センターには、脊椎外科に関する患者さんのほとんどを紹介させてもらっています。膝・股関節の人工関節置換や肩挙上再建等の四肢の手術もお願いしてきました。

日本が超高齢化社会に入り腰部脊柱管狭窄症や骨折が増えており、当院でもこれらの患者さんが多くなっております。村山医療センターにお願いすることも更に増えることが予想されます。

近頃は、開業以来の患者さんのお孫さんが来院したりします。地域の中に馴染んできたかなと、うれしく思います。これからも、皆さんからの信頼を得られるような医院を目差してスタッフともども頑張っていきたいと思っております。



診療科
整形外科／リウマチ科／リハビリテーション科

受付時間

月・火・木・金	9:00～12:30
	15:00～18:30
土	9:00～12:30

休診日 水曜日・日祝日・土曜日午後

住所 東京都東大和市向原6-1201-17-3F

電話 042-565-4688